

2012年12月4日

見えない見えにくい子ども達への支援
横浜市立盲特別支援学校の図書館の事例を中心に

元横浜市立盲特別支援学校
図書館司書 石井 みどり

1. はじめに

町には、美しい絵本が溢れています。日本では、年間1,400タイトル位の絵本が出版されていると言われています。けれど、絵や文字が見えない・見えにくい子どもたち、文字が読めない子どもたち、そのままの文では内容がよく分からない子どもたち、図書館や本屋に自分では行けない子どもたち、学習障害とかディスレクシアと言われる子どもたち、そうした子どもたちに拠って立ち、配慮した図書は極僅かです。

見えない子ども達にとって、本はただの「つるつるの紙の束」にすぎません。どのようにしたら、子ども達が本と出会うことができるのか、どのようにしたら子ども達が本を楽しめるのか、本校がそのためにどのような工夫をしているのか、本校の取り組みを中心に報告します。

図書館は、どんなお子さんにも、安心と、信頼が保障されていて、自由な読書活動が出来る、居心地の良い空間であって欲しいものです。

本校の図書館は、現在33グループ、600人に近いボランティアの支援を受けています。それは、視覚障害者は、出版物をそのままの状態では情報を得ることが、非常に困難であり、媒体の変換が必要であり、それをボランティア活動に依存しているということなのです。

高田馬場に、点字図書や録音図書を扱っている日本点字図書館があります。ここを開館された本間一夫さんが「戦災を逃れてリヤカーで点字本を運んだ」と言われました。本を愛おしむ心が伝わってきます。それほどまでに、視覚障害者向けの本は、1冊1冊、手作りであることが多く、貴重な資料なのです。

2. 利用者

横浜市立盲特別支援学校の図書館は、ありとあらゆる人たちが利用しています。

- ・本校在学学生 110名(2012年度)
幼稚部 小学部 中学部 高等部普通科
高等部専攻科(高等部卒業以上90%以上が中途失明者。あん摩・指圧・マッサージ、鍼灸師のための職業教育を行っています。卒業時に国家試験があります)
- ・乳幼児相談部(家族)卒業生 教職員 家族
- ・地域のセンター校として(特別支援学級 小・中学校)
- ・その他 他の盲学校、養護学校への貸出
- ・図書館への貸出(特に、横浜の歴史 横浜の地理についての点訳本)

3. 見えない、見えにくいということ

視力を、指数弁、手動弁、光覚があるという様な言い方をしています。弱視(ロービジョン)とか、先天盲、中途失明(中途障害)という言葉もあります。

視野についても、「人間の視野は、片眼で約160度、両眼で約200度、中心で、文字などの静止した物を感知し、周辺で動きを感知する。」見え方についても、視野狭窄、視野欠損、中

心暗転などがある……というような言い方をしています。

色の見え方については、以前は色盲・色弱と言っていましたが、現在は、色覚異常・色覚障害・色覚特性という言葉を使っているようです。赤緑色覚異常は、日本人男性で20人に1人、女性で500人に1人といわれています。他に、青黄色覚異常もあります。

「見え方」眼の状況は、1人ひとり異なります。他に、羞明がある、眼振がある、眼圧が高く長時間の読書が困難等々・・・健康状態で見え方は変わります。日常生活で、注意が必要な児童・生徒も居ます。

しかし、図書館は訓練所ではありません。点字使用が見込まれる生徒であっても、残存視力を活用したいと希望する間は、読みやすい、読みたい媒体で提供することが図書館の責務であると考えています。これは、時として教員から疎んじられていますが、「読み易くなければ内容が分かりにくい」「楽しくなければ読書ではない」のです。図書館は楽しい所にしておきたいものです。

4. 施設・設備

夏涼しく、冬温かく、居心地の良い空間に、人は自然に集まってきます。

閲覧室の手前に司書室が有りますので、子どもたちが通ると必ず「おはよう」「こんにちは。今日は一人で来たのね」等と声を掛けます。カーペットコーナーがあり、ぬいぐるみに囲まれて、好きな格好で読書が出来ます。冬にはホットカーペットを敷き込みます。

本館の図書館管理ソフトは「音声対応 図書館情報BOX 4.0」(株)教育システム)を使用しています。子どもたちは、一人で本の借り受け・返却が出来るようになり、読書の権利が守られています。

・ 閲覧室 (6教室分 240㎡) 司書室 (1教室分 40㎡)

拡大読書機 デイジー再生機器 (貸出用も含む) iPad DVD・ビデオデッキ カラーコピー機 点字印刷機 インター ネット常時接続 校内LAN接続 よみとも (「高齢者・視覚障害者支援型情報システム」OCR 自動点訳、音声読み上げ) 電子図書 (辞書 他)

・ 教材資料室 (20㎡ 集密書架設置)

・ 対面朗読室 (放送室内)

5. 1冊の本を買ったら・・・媒体の変換

1冊の本を買ったら、いかに速やかに、いかに媒体の変換を行うかが課題です。勿論、質の高さも要求されます。媒体の変換はボランティアに依存しています。

・ 点字図書 録音図書 (デイジー図書) 大活字本 バリアフリー絵本

・ 手で読む絵本 点字絵本 点字図書 録音図書 (デイジー図書) 拡大絵本 拡大文字 反転文字プリント本

・ マルチメディアデイジー図書

文字の大きさが変更可能であること、これだけでも弱視者にとって「優しい図書」なのです。読みと文字の表示が同期し、映像があると、読みに障害のある子ども達へと、読者が広がります。

・ 対面朗読

対面朗読は、究極の情報保障です。音声訳のボランティアに、毎週、決まった時間に学校へ来て載いて、用意された資料を読んで載きます。読んで載く部門によって、その部門を得意とするボランティアが複数で対応してくださっています。時には、ご家庭のポストの中身であったりします。

東洋医学の対面朗読を担当してくださるグループに対して、専門的な研修会を開催しました。

6. 見えない・見えにくい子ども達の 本への誘い

子ども達が情報を得る手立ては「聞く」「触る」（時として「香る本」も有りますが）、聴覚と触覚になります。絵本との出会いは、子どもを取り巻く大人達が「しむける」必要があります。一人ひとり興味関心は異なります。どのようにしたら、手から、指から、耳から情報を得る力を身につけることが出来るのでしょうか。

・本の出会いの前に、触ることになれることが必要とされます。点字で作られた「迷路」は子ども達だけでなく、中途失明の大人達にも有効な初めての「触読」の教材です。

・触って分かる → 点図だけでなく、手で読む絵カードで「色々な物に触ってみる」練習をします。

・分かることの楽しさが分かり始めて「知りたがり屋の子ども」になると、1人で図書館にやってくる様になります。

(1) 手で読む絵本（さわる絵本）

手で読む絵本は、文字の点訳と同時に、絵の中から中心となる事物を取り出して、布などで再現した手作り絵本です。情景を思い浮かべる手がかりとなるように、触って分かる工夫をこらします。手で読む絵本を作るボランティアさんたちは、日頃から、いろいろな素材を集めるために苦労しています。

まだ点字が読めなくても、お話を読んでもらい、多くのことを説明してもらって、手で触っているうちに、情報を得る力が育まれます。

(2) 点訳絵本

透明のシートに点字を書いて、絵本に張り付けた絵本です。大人達、或いは兄弟・姉妹も一緒に絵本を楽しむことができます。（これは、大阪の全盲の岩田さんが、ご自身のお子さんに、読み聞かせをしたくて、工夫された物です。現在、この点訳絵本の文庫活動をされています。）

(3) 点図絵本

絵や写真を言葉で説明するのには限界があります。点字絵本は点字の「絵本」です。大、中、小の点の連続で絵を描きます。けれども、見たこともないものを触って理解するのは大変なことです。慣れないうちは分かりにくいかも知れません。十分な説明受け、経験を重ねる内に、そこに描かれた人物の唇や目の形で表情を読みとったり、雨だれの大きさや方向で雨の様子が分かるようになります。もっと慣れてくると、立体の形や空間の広がりも分かるようになります。

点訳する時、童話や小説の挿し絵なども、今までは省略するのが当たり前になっていました。そこに提供されている映像を、点字の文章で解説するだけでなく、点図があるとイメージが広がります。最近の出版物は、ことのほか写真、イラストが多用されるようになりました。点訳する際に、ちょっとした点図があるだけでも手がかりとなり、理解が深まります。

パソコンで、かなり自由に点図を描けるようになりましたが、まだまだ大変な労力と感性が必要です。点図を描けるボランティアさんも全国で増えてきました。分かりやすい点図を作るために、製作者と、点字図書館や、盲学校の先生や視覚障害者たち、時には子どもをまじえて、お互いに意見を出し合って作っています。より質の高い「触読用の絵本」の製作が課題です。

(4) デイジー図書

2011年2月に行われた「あん摩・マッサージ・指圧師、鍼師、灸師」の国家試験より録音の試験問題がカセットテープからデイジーになりました。本校でも、該当の学年が入学した時点から、教材・模擬試験等はすべてデイジー版で作製していました。

デイジー図書は、今まで、慣れ親しんできた「カセットテープ」に替わる物としての通常の録

音図書としての役割だけでなく画期的な使われ方がなされるようになりました。デージー図書の導入によって、安易な読書に走るのではないかという、おとな達の心配を他所に、多くの児童・生徒たちは、点字図書と録音図書をきちんと目的によって読み分けています。

① まだ点字が早く読めない児童・生徒

音声で聞いて内容を理解しておく → 点字の推測読みが可能になる。新しいことばを予め理解しておくこともできる。

触読の速度より、少し早めに再生し、点字に慣れる

② まだ墨字をきちんとよめない児童・生徒、墨字を読み続けることが困難な児童・生徒（眼圧があがってしまう。眼精疲労が激しい）

③ 点字も墨字も読書の手段にはならない児童・生徒

当分の間、デージー再生機の使い方・編集の講習会、機器の貸出等は必要かと思いますが、すべての読みの障害が有る人々に有効であることは確かです。

7. 図書館の運営

夏休み等も含めて、いつでも図書館が開館され、専任の司書が居ることは、図書館の最低の条件です。教育課程を支援する資料が充実していること、これは、全職員が図書館に対して責任を持つ姿勢が必要です。こどもたちの興味関心を引く資料が充実していて、知りたいことが分かった喜びは、子どもたちの世界を大きく広げるに違いありません。

本館の運営には、司書教諭 校務分掌「情報メディア支援部」（各学部から） 図書館運営委員 ボランティア 生徒図書委員会が当たっています。

また、廃棄をも考慮に入れて、長期にわたる蔵書計画を立て、教育委員会へ予算の増額を言い続けることも大切です。

* 学校の中で、力のある教員を図書館に引き込むことが大切です。

8. 他館との連携

点字図書、録音図書は視覚障害者の共有の財産です。全国的な連携を取るために、様々な工夫・努力を行っています。

・国会図書館視覚障害サービス：専門書の音声訳サービス。予算の関係で次年度に回される事もあります

・「サピエ」：全国の点字図書館等の蔵書検索が可能であり、ネット上郵送貸し出しの手続きが可能。点字データ・音訳データも入手出来ます。

今まで音訳図書、点字図書を借りる際は、図書館職員の手を借りていました。サピエの利用によって、匿名性が保たれ、入手するまでの時間も短縮されました。

今のところ、送料は 3キロまで無料です。

・リファレンスサービスと活字図書の団体貸出：横浜市立図書館、神奈川県立図書館 横浜市立大学医学部等から受けています。

9. 特にご紹介したいこと

(1) 易しく書き直した児童書

全国学校図書館協議会主催の「読書感想文コンクール」の課題図書は、すべてが点訳されデージー図書になります。同じ本をみんなで読む良い機会です。リクエストに応じて易しく書き換えるリライト版を制作しています。

・難しい言い回しをしない

- ・一つの文に 一つの事柄
- ・短い文章
- ・難しい単語を使わない

このようなことを、作者の思いを損なうことなく書き換えることは非常に難しい作業です。日本でも、リライト版の出版が望まれます。

(2) タブレット端末による貸出

昨年度から タブレット端末 i-pad の貸出を受けて、電子図書の利用を始めました。マルチメディアデジの貸出が「本の貸し出し」感覚で行えるようになりました。

10. おわりに

2008年5月3日、国連障害者権利条約が発効しました。早期に国内法を整備し、一刻も早い批准が望まれます。続いて6月5日「バリアフリー教科書法」が成立しました。すべての子ども達に「読める教科書」を提供する事が義務づけられました。2010年1月1日、改訂著作権法が施行されました。当時日本点字図書館にいらっしゃった梅田ひろみさんが「まったく遠い道のりだった。しかし、これは到達点ではなく、情報アクセスに困難のある人達の情報保障の新たな取り組みの始まりなのだと思う。ほんの一步ではあるが、待たされた月日を思えば、大切な大きな一步である」（雑誌「視覚障害」）と書いています。

出版物の情報が「合理的配慮」として「出版物をそのままでは読めない」読者に提供されることを期待しています。人は皆、個々に無限の可能性をもち、様々な価値観や人生観で様々な生き方・生き甲斐をもって生きています。その多様な人々を、互いにどのように尊重し、認め合い、どのように共に生きていくかというところで「合理的配慮」を考えて欲しいものです。

ここで忘れてはならないのは、幼弱、老齢、病気や障害、その他の事情により、自らの意思や力で、自らの権利を主張し、行使、確保することがむずかしい人々の権利擁護です。誰もが暮らしやすい社会環境の構築に当たっては、お互いの理解、合意、妥協を得られるかが鍵となります。

図書資料の製作をボランティアに依存している日本の姿は正常ではありません。ボランティアが構築した専門性を行政がしかるべく受け止めて、予算を付け体制を整えるべきです。

大きな活字の本やユニバーサルデザインの絵本も出版されるようになりました。図書館が積極的に購入し、このような書籍が有ることを世の中に啓発し、書籍の出版が、出版社にとって、作家にとって、画家にとって採算が合うようになって欲しいものです。

ここ数年、大学や専門学校へ卒業生を送っています。残念ながら、十分な支援を受けているとは言えません。

社会に出てからこそ、豊かな読書環境が保障されることを願ってやみません。耳を塞いで聞き続けること、まして大きな音で聞き続けることは、有網細胞を傷つけます。一度損傷した有網細胞は起きあがってはくれません。読書好きの難聴のお子さんの聴覚が落ちていくのを見ているのは辛いことです。人に優しい読書環境の整備が望まれます。

22ポイントの「大きな活字の本」が出版されれば、A5版をそのまま単純拡大読して楽な読書が出来る人もいます。

2005年7月には「文字・活字文化振興法」が成立しました。第3条に「文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり。地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行わなければ

ならない」と定められています。

国会図書館の資料の電子化の事業が始まっています。納本時にデータを添付することを義務づける。媒体の変換を必要とする際に提供できる体制が望まれます。

必要な資料を、いつでも入手できること、どこの本屋さんでも買える、どこの図書館でも読める、そうなって欲しいものです。

1 1. 参考資料

- ①「見えない・見えにくい人も「読める」図書館」 公共図書館で働く視覚障害職員の会/編著 読書工房 2009
- ②「視覚障害者サービスマニュアル -情報のバリアフリーをめざす図書館のために- 2007」 近畿視覚障害者情報サービス研究協議会編 読書工房 2006
- ③「すすめ!対面朗読 -すべての図書館のための対面朗読マニュアル-」 図書館問題研究会障害者サービス委員会編 図書館問題研究会東京支部 1995
- ④「知っていますか?視覚障害者とともに一問一答」 楠敏雄、三上洋、西尾元秀編著 解放出版社 2007
- ⑤「ロービジョンQ&A(ロービジョンらいぶらりー) ロービジョンQ&A 編集委員会編 大活字 2004
- ⑥「イラストでわかる視覚障害者へのサポート カラー版」 国際視覚障害者援護協会編 読書工房 2009
- ⑦「ブックナビ視覚障害がわかる本273冊」 桜雲会/編 桜雲会 2008
- ⑧「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング -読み書き・運動が苦手なのは理由があった-」 北出 勝也/著 図書文化社 2009
- ⑨「あなたにもできる拡大写本入門-広げよう大きな字-」 山内 薫著 大活字 1998
- ⑩「点訳絵本の作り方 増補改訂第3版」 岩田 美津子著 せせらぎ出版 2005
- ⑪「手作り布の絵本・さわる絵本 改訂 -その明日のために-」 布の絵本研究連絡会編 偕成社 1980
- ⑫「Q&A バリアフリー新法-高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の解説-」 国土交通省総合政策局政策課・交通消費者行政課/監修 ぎょうせい 2007

表1 身体障害者福祉法施行規則別表第5号

身体障害者障害程度等級表(視覚障害)

級別障害内容

1級 両眼の視力(万国式試視力表によって測ったものをいい、屈折異常のある者については、矯正視力について測ったものをいう。以下同じ。)の和が0.01以下のもの

2級1 両眼の視力の和が0.02以上0.04以下のもの

2 両眼の視野がそれぞれ10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が95%以上のもの

3級1 両眼の視力の和が0.05以上0.08以下のもの

2 両眼の視野がそれぞれ10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が90%以上のもの

4級1 両眼の視力の和が0.09以上0.12以下のもの

2 両眼の視野がそれぞれ10度以内のもの

- 5級1 両眼の視力の和が0.13以上0.2以下のもの
2 両眼による視野の2分の1以上が欠けているもの
6級 一眼の視力が0.02以下、他眼の視力が0.6以下のもので、両眼の視力の和が0.2を超えるもの

関連ホームページ一覧

①視野狭窄体験 HP メニュー

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/nobusan/pinhole/>

②SP Code Official Homepage

<http://www.sp-code.com/>

③「日本漢点字協会」

<http://kantenji.jp/>

④点字絵本の会

<http://www.pikara.ne.jp/tenjiejhon/>

⑤視覚障害者読書支援協会

<http://bba-book.net/>

⑥てんやく絵本 ふれあい文庫

<http://homepagel.nifty.com/fbunko/>

⑦ふきのとう文庫

<http://www.community.sapporocdc.jp/comsup/fukinoto/>

⑧DVD音声解説CDの貸出しサービスのご案内

<http://www.nittento.or.jp/kasidasi/DVDinfo.htm>

⑨音声図書館

<http://www.onsei.jp/indexD.html>

⑩日本ライトハウス「視覚障害者生活支援情報データベース」へようこそ

<http://125.102.96.89/lightsearch2/Top.aspx>

⑪国立国会図書館視覚障害者等への図書館サービス

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual.html>

⑫サピエ

<https://www.sapie.or.jp/>

⑬東京都公立図書館 録音・点訳図書、拡大写本新作情報

<http://www.library.metro.tokyo.jp/16/16800.html>

⑭全国視覚障害者情報提供施設協会ネットワーク

<http://www.naiiv.net/>

⑮近畿視覚障害者情報サービス研究協議会

<http://www.lnetk.jp/>

⑯一般社団法人 ディスレクシア支援協会

<http://www.english-dyslexia.co>